

# 50周年を迎えて～今

旭川大学 副学長 高 波 澄 子

2019年11月16日（土）、旭川大学開学50周年・旭川大学大学院開学20周年の記念式典が挙行された。

1968年4月に学校法人北日本学院大学が開設され、経済学部経済学科が設置されてこの方50年である。1970年には北日本学院大学は旭川大学と改称された。

現在の経済学部は組織改編等を経て、経営経済学科として3つのコース（経済学コース、経営法学コース、会計・商学コース）を設置している。

旭川大学の教育理念「地域に根ざし、地域を拓き、地域に開かれた大学」を基盤とする経済学部経営経済学科での学びを終えた卒業生は、「自立した職業人として地域で活躍できる人材」になるべく教養と知識等を身に付けて地域に送り出され、地域の要請に応えながら成長してゆく。2019年度、2020年度の卒業生の就職状況を見ると、卒業生のそれぞれ49%、60%が道内企業等に就職している。

この本学経済学部の教育のあり様は、教員らの他ならぬ授業の工夫、つまり本学経済学部の学生の特質をとらえた上でのゼミナール式授業の採用といった学生－教員間の取組み等に裏打ちされたものである。

1970年からの旭川大学経済学部経済学科の歩みの途上にあって、2008年4月1日に保健福祉学部が併設された。保健福祉学部は、医療・福祉領域の専門職養成学部であり、経済学部経済学科といういわゆる文系とは異なる学部である。特に保健看護学科は、保健師・看護師の医療専門職を養成する、どちらかと言えば理系の学科であるために、この本学の決して広いとはいえないキャンパスに2つの異なる科が混在することになったわけである。そのため学生間、教員間においてもそれぞれの「学科」の特徴をお互いに理解するまでは、なかなかしっくりとは行かないことが多かったように思われる。これは、私自身の問題だったのかもしれないが…。

また、保健福祉学部の教員として本学に就職した当時、1991年に開講された経済学コースに昼夜開講制の生涯学習クラスがあった。夜の午後9時前後に、玄関ホールで受講生と思われる学生に遭遇することがあった。彼らは、授業の感想を話し合っているのか楽しそうでもあり賑やかであった。彼ら学生の中には高齢と思われる方も見受けられた。その状況を見たとき、「この大学は地域に根ざし、地域に開かれた大学なんだ」と感慨深かったことが思い出される。しかし残念ながら、現在は閉講になって久しい。

50年の歩みを経た今、日本を含めた世界は、新型コロナウイルス感染症感染拡大をいかに制御するかという困難を極める課題に一丸となって闘っている。この新型コロナウイルス感染症の感染拡

大は、当該患者の治療にあたる医療機関の非常な逼迫状況と、それに伴う医療職の激務という厳しい現状を突きつけている。

本学においてもこの感染症対策に全力で取り組んでいるところである。一日も早い収束、いや終息を願うばかりである。